

社団法人名古屋工業会会誌



2011 7-8 月号

[第45回通常総会報告]

理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

[特別講演]

ITとロボット技術を基盤とした国際救助隊 サンダーバードの構築を目指して

[情報ネットワーク]

支部報告・会員ニュース

パズル



発行 社団法人名古屋工業会

(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062名古屋市昭和区狭間町4

TEL • 052-731-0780

FAX • 052-732-5298

E-MAIL • gokiso@lime.ocn.ne.jp

http://www.nagoya-kogyokai.jp/



平成23年度 名古屋支部の "総会と見学会"

平成23年度名古屋支部の総会と見学会を次の通り開催致します。 会員の皆様(家族同伴可)はふるってご参加下さい。

記

1. 日 時:平成23年9月17日(土) 8:45栄テレビ塔北 観光バス駐車場に集合

2. 行程: 栄(9:00) →長浜 黒壁スクウェア*【自由散策】(10:40~12:00) → 長浜ロイヤルホテル (総会・昼食) (12:05~13:45) →

浅井・江のドラマ館【見学】** (14:20~15:20) →栄テレビ塔 (17:00頃)

- * 黒壁美術館では古代から現代までの世界のガラス作品を約100点常設展示し、ガラスアートの粋を鑑賞できます。
- ** 大河ドラマ「江〜姫たちの戦国〜」を映像や、姫ならではの豪華な衣装、写真、パネルなどで紹介。 三姉妹の波乱と苦難の人生を、やさしくしなやかに生きた江の視点から見ます。浅井三姉妹とお市が行き来し、信長、秀吉が駆け抜けた北国脇往還に面するゆかりの地が会場です。
- 3. 会 費:1名 6.000円 (同伴家族も同じ。小学生は半額)
- 4. 申込先:次の単科会連絡幹事へ。締切は8月10日(水)

CE会 山盛 康(C③) TEL 052-691-5351 名晶会 小山 敏幸 (K61) TEL 052-735-5124 光鯱会 字佐美智伯(A⑥) TEL 052-704-6137 計測会 大鑄 史男 (F49) TEL 052-735-5393 巴 会 杉山 耕一 (H⑥) TEL 0562-55-7772 経友会 仁科 健(B50) TEL 052-735-5396 電影会 三宅 正人 (E60) TEL 090-3581-4472 情友会 豊 (J 56) TEL 052-735-5440 石橋 双友会 泉地 正章(W44)TEL 052-837-7271 翼 会 小鹿 良雄 (底23) TEL 0561-72-4071 緑会 仁 (S)20) TEL 052-702-1784 静男 (D42) TEL 059-232-1829 DF会 渡辺 名窯会 道家 清正 (Y30) TEL 052-912-3492

支部連絡先:

緑 静男

TEL 059-232-1829 / E mail mgsar10@jupiter.ocn.ne.jp

岩田修一(名古屋工業大学大学院ながれ領域)

TEL 052-735-5256 / FAX 052-735-5255 / Email midori_jimu@ach.nitech.ac.jp

《総会と見学会の注意事項》

- 1. 当日および前日のキャンセルは、参加費の払い戻しができません。
- 2. ご担当者は、参加者名簿を、事前に支部連絡先まで必ず提出してください。
- 3. 開催に関するお問い合わせ、緊急の場合など、開催直前のご連絡は、以下の旅行会社までお願いします。

旅行社:名鉄観光バス㈱名古屋支店

担 当:本村 美雪

住 所:名古屋市中川区中京南通り2-7

<u>電話:052-354-6909</u> FAX:052-363-0210

表紙写真説明

「ああ夏休み!」(尾瀬 大江湿原にて)

夏休みと言えば、青い海、青い空! そう仕事を忘れ、遊び、充電しましょう!

撮影者 安村隆志 (W①)

第45回通常総会報告

社団法人名古屋工業会第45回通常総会が、平成23年5月21日(土)午後2時から高橋実学長のご臨席を賜り、会員153名が出席し中日パレスにおいて開催された。

総会に先立ち、22年度にご逝去された会員物故者並びに東日本大震災の被災者のご冥福を祈り、出席者全員で1 分間の黙祷を捧げた。

総会は二杁常務理事の司会で篠田理事長の開会挨拶に始まり、高橋学長の会長挨拶の後、篠田理事長の議長で議事を行い、提案された議案を異議なく承認された。

次に総会行事として、理事長から叙勲・褒章受賞者に記念品、母校退職職員に感謝状と記念品、会員で卒業満70・60・50周年の出席者に記念品の贈呈があった。なお、対象者のうち欠席者及び卒満対象者で総会委任状の提出者には、後日記念品を送付することとした。

その後開催された特別講演会は戸苅顧問の司会により京都大学 工学研究科 教授 工学博士の松野文俊氏からIT とロボット技術を基盤とした国際救助隊サンダーバードの構築を目指して」という演題で講演をいただき、参加者に大 変好評であった。

会場を移して17時から懇親会が開催され、木越副理事長の司会で水谷副理事長の挨拶の後栗村東北支部長より東日本大震災の詳細な状況説明があり、その後、二杁常務理事の乾杯により開会された。

杯を交わしながら、名工大ギターアンサンブル部による演奏の中で名刺交換等旧交を温めるうちに時間も過ぎ、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い張田副理事長の締めにより閉会とした。

第45回通常総会次第

- 1. 理事長挨拶 篠田陽史 社団法人名古屋工業会理事長
- 2. 学長挨拶 高橋 実 国立大学法人名古屋工業大学学長
- **3. 議 事** (決議事項)
 - 第1号議案 平成22年度事業報告及び決算報告
 - 第2号議案 平成23年度事業計画及び予算案
 - 第3号議案 一般社団法人の定款案について
 - 第4号議案 その他

4. 行 事

イ 叙勲・褒章等受賞者へ記念品贈呈(敬称略)

鈴木泰信 K34 佐藤太英 E32 舩橋鉀一 M28 吉田昭二 E23

宮島 博 D37 山本富昭 E23 杉山道生 K26

ロ 名古屋工業大学退職教職員へ感謝状と記念品贈呈(敬称略)

(退職教官)武津典彦 藤本英雄 有為楠 泉 稲村 豐四郎 神保孝志

堂田邦明 鬼頭修己 田村隆善 野上正行

(退職事務官)梅村常夫 小林公夫 竹内一夫 石黒 寛 加藤良夫

ハ 名古屋工業大学卒業満 70、60、50 周年の会員へ記念品贈呈(敬称略)

(70年─昭和16年卒) -47名

C 鴻池一郎 始 5 名 A 太田良男 M 伊藤 剛 始 15 名 E 小岩 浩 始 19 名

W 平野良彦 始4名 D 松田洋三 ⑥ 中村新三 始2名

(60年—昭和26年卒) -31名

C 中野 茂 始 2 名 A 北垣圭一 M 内海安博 始 7 名 E 奥村士郎 始 14 名

W 長谷川栄一 始 3 名 D 上田芳雄 始 2 名 Y 和波幹夫 K 杉山道夫

(50年—昭和36年卒) -99名

C 福山 徽 始 10 名 A 渡辺誠一 始 11 名 M 松原十三生 始 22 名 E 藤原康宏 始 20 名 W 岩間正夫 始 11 名 D 篠田 洋 始 10 名 Y 岡田道彦 始 6 名 K 大橋照男 始 9 名

二 特別講演

講師:松野文俊 氏(F56)京都大学工学研究科 教授 工学博士

演題:「IT とロボット技術を基盤とした国際救助隊サンダーバードの構築を目指して」

5. 懇親パーティー

理事長挨拶

社団法人名古屋工業会 理事長 篠田 陽史 (M33)

社団法人名古屋工業会第45回通常総会を開会するにあたり、本日提案いたします議題の考え方をのべ、審議の参考にして頂けたらと思っておりますが、その前に、会員の皆様にはリーマンショック以来の低迷期から漸く明るさが見えてきた矢先、東日本大震災という未曽有の災害が引き起こす国難の中で、次世代の名古屋工業会を決定するこの総会に参加いただき、本会に対する熱い想いを感じ、胸に迫るものであります。

また高橋学長には本会会長として、先生方に は御来賓として多数出席頂いており、感謝に堪 えません。

突然ではありますが、東日本大震災に遭われました会員の皆様の御消息をお伝えしたいと存じます。

被災の状況は後ほど開催予定の懇親パーティで東北支部長の栗村様にお願い致しますが、会員の方で亡くなられた方は幸い居られないようですが、親類、友人そして卒業生の中には残念な情報も聞いております。勿論被災された会員はまだよく判っていませんが、多数にのぼっているようです。早い復興をお祈りします。

さて本日審議いただく決議事項は、第1号議案として平成22年度事業報告及び決算報告、第2号議案として平成23年度事業計画及び予算案、第3号議案として一般社団法人の定款案について、第4号議案その他となっております。

審議の内容につきましては、二杁常務理事より各議案審議の際説明いたしますが、特にここでは昨年第44回総会の冒頭の挨拶及び今年の新年挨拶で取り上げました、新定款案の最重要問題4項目についてその後の状況を加え説明させて頂きます。

第1が事業目的の重み付けを会員相互の連絡、啓発、親睦以上に母校への支援に重みを置く事に致しましたが、大学もこれに応え、より

親密に連携して行くため、学長直轄組織として 卒業生連携室が設置されました。担当総括には 長年当会の広報委員長として、また昨年からは 本会理事として活躍いただいております北村副 学長がこれに当たられます。

これに加え、長年の懸案でありました、電子メールアドレスによる名簿作りが具体的に動き出します。名古屋工業会も現在の28パーセント弱の卒業生組織率を大きく向上出来れば、将来財政面でも大学の支援が出来ると考えています。

第2が会の名称であります。皆様に投票頂きましたが、一般社団法人名古屋工業会が、全投票数の45.5パーセントで1位、2位が一般社団法人名工大ごきそ会の30.3パーセントで一般社団法人名古屋工業会に決定となります。

第3が全卒業生、在校生、大学と関連する団体との連携を密にし、それぞれの立場で広く母校を支援して行くため会友という制度を定款に盛り込みました。具体的には単科会、技術士会、海外同窓会などがありますが、文化、体育会OB会や名工大OB管弦楽団その他出来る限りの結集を図ってまいります。

第4が代議員制度と総会のあり方ですが、二 杁常務理事が審議の際詳しく説明いたします。

最後になりましたが、東日本大震災の影響は 原発問題で加速され全国に拡がってまいりまし た。まだまだその影響の大きさは判断できませ ん。

会員の皆様の生活でも、ビジネスでもそして 母校も極めて多難な年となりますが、新名古屋 工業会に向け皆様の絶大なご支援をお願いし、 開会の挨拶といたします。



会 長 挨 拶

名古屋工業大学 学長 名古屋工業会 会長 高橋 実

本日は、第45回通常総会が非常に多くの会員の参加を得て盛大に行われることをお慶び申し上げるとともに、大学側としては非常に心強く感じております。

この場をお借りしまして、簡単に現在の名工 大のおかれている状況、ならびに同窓会との関 係等について、報告或いはお願いをしたいと思 います。

まず、皆様方非常に関心をお持ちの東日本大 震災への支援等について報告致します。

3月はどこの大学も個別に動いてはいけないということで、国立大学は国立大学協会が指定した被災地の大学を支援するという要請に基づき、我が大学は学生諸君に協力頂いて福島大学に一日半で4トン車2台の物資を輸送いたしました。要請後、実際に支援物資が現地に届いたのは、輸送網もまだ大変不安定な頃ではありましたが、本学の機動性を活かし一日半という短い時間で送り届けることができました。先方大学にも非常に喜んで頂きました。その他、義援金活動等は他大学と同様ですので、それについては省略致します。

4月以降本学では、早い段階で様々なステー クホルダー、即ち企業、自治体、さらには市民 といった方々に、本学教員による現場の調査、 或いは分析を踏まえた情報を共有してもらいた いという思いから、緊急講演会をシリーズで開 催しています。4月には既に3回、5月から夏 にかけて計10回程を予定しており、その後も新 しいものづくり、社会づくりに向けたディス カッション、パネルディスカッションなどを予 定しております。 当面 3 回行った内訳ですが、 第1回は「ものづくり」に非常に重要ないわゆ るサプライチェーンの問題を取り上げました。 次に第2回として津波と液状化を取り上げまし た。第3回は地震による家屋被害について報告 しました。第4回は、浜岡原発の停止を受け、 ものづくりを行うメーカーには必ずしも節電を

要求されていない節もありますが、大学として、 学内外における節電対策の解説を含めた緊急講 演会を予定しております。

学内状況について、まず研究についてご報告 致します。東海地区新年互礼会でも申し上げま したが、1月に入り、中日新聞一面を飾るよう な名工大教員の研究が続いて3本の記事となり ました。断熱フィルム、動脈瘤の診断、或いは 静電気ショックのメカニズムなどがその内容で す。このような研究はここ数年、随分マスコミ で紹介されるようになったのですが、特にここ にきて名工大の研究のアクティビティが報道さ れる機会が増えているということを、学長とし ても非常に嬉しく思っております。加えて4月 には、文部科学大臣賞の科学研究部門で、全47 件中の3件を名工大教員が受賞致しました。こ の賞は国公私立問わない賞ですから、いかに頑 張っているかということを推測いただけるので はないかと思います。分野も材料、生化学、或 いは電気等、また年齢も若い先生から教授まで 非常に層が厚くなっており、今後さらに名工大 の研究をアピールする場が増えてくるのではな いかと期待しております。

次に教育関係について、ご報告致します。云うまでもなく、教育の成果を短期的に評価することは非常に難しいものがあります。関連したものとして、入試関係ですが、志願者倍率は昨年より若干上がっております。ただ、入学する学生の80%はいわゆる愛知、三重、岐阜に固まってきているのが現状です。これについてどう考えるかというのは難しいところもありますが、できるだけ全国、或いは海外から優秀な学生を集めるということを考えたいと思います。この点に関しては後ほどお願いしたいことがござい



ます。

留学生については、原発事故を受け、留学生 が帰国するという話を報道などで皆さんよく耳 にされていると思いますが、つい先日、工学系 の学長の集まりがあり、その中で、東北大学の 総長から90%近くの学生が戻ってきたという報 告がありました。ただし問題は新しい学生がな かなか来ないということで、本学も今後の状況 を注視し新しい学生に正確に状況を説明し、募 るようにしていきたいと考えております。教育 全般を大きく考えれば、いろいろと考える要素 がありますが、一つの要素、一番わかりやすい 例としては、大学院進学率が70%近くになって いるという事情を踏まえて、大学院前期の教育 に重点を置くような例えば4プラス2ではな く、トータル6年間というスパンでしっかりこ れからの社会・ものづくりに貢献できる国際的 なリーダーを育てていこうという動きをしてお ります。これにつきましては、学長挨拶あるい は大学からのメッセージとして、会報やホーム ページに載せられておりますので、そちらをお 読みいただければと思います。

そして、「国立大学のあり方をどうするか」ということについてですが、これにつきましては何回も申し上げている通り、国立大学の中で工科系単科大学の位置づけというのは、大変難しいところがあります。それに加えて愛知県には4つの国立大学があり、その中で本学が工科系単科大学として今後発展するためには、教職員、学生、OB或いは市民、国民といわれる方々を含め、社会での存在意義をしっかり固めていかなければいけない非常に厳しい情勢にあると

いうことをご理解いただければと思います。

財務については、幸いながら今年度は運営費交付金を今まで通り実質的には 0 パーセントに近い形でいただけることになりました。ただし、来年に関して申しますと、震災の影響とは直接関係なく、元々非常に厳しく狭められるということになっております。そのため「各大学がしっかり国民に説明できるように改革に取り組む」ということで、只今それに向け様々な提案を行っているところであります。

最後になりますが、同窓会については、先ほど理事長からもご紹介がありましたが、工業会も組織体制を変える中で、本学としても同窓会との関係をしっかりと強化していきたいと考え、鶴舞キャンパス内にある校友会館の2階に卒業生連携室を設置することに致しました。そこでは名工大100年の歴史を含め〇Bの活躍ぶりを示すような展示スペースを作っておりますので、OBの方々も気軽にお立ち寄りいただければと思っております。メールアドレスについても、今年度の卒業生から配布し、若い方から会員化を進めるとともに、全体を今まで以上に一体感のある組織に持っていければと考えております。

いろいろお話したいことはございますが、現在の厳しい状況下で大学教職員、現役学生、OBの方々と一丸となって、名工大の発展に力を併せて行くことができればと思っております。今後も本学のために、ご協力ご支援、或いは厳しいご批判をいただければ幸いです。

以上、私からの挨拶とさせていただきます。 ありがとうございました。

平成23年5月21日

会員各位

社団法人 名古屋工業会理事長 篠田 陽史

第45回通常総会報告及び決議ご通知

平成23年5月21日(土) 開催の社団法人名古屋工業会総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。

平成 22 年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

公益法人制度改革への対応

一般社団法人への移行認可申請をすることを総会で承認されたことを受けてその準備作業に 着手し、改定定款原案、関係規則案等を理事会に提示すると共に、申請先の行政庁である愛 知県と事前相談を行なうこととした。

2. 大学支援事業

(1)教育·研究等支援

- ①教育支援として、第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師(実務型教員)の 派遣を継続して実施した。
- ②学生の就職支援の一環として、OB の企業トップによるセミナーおよび OB 講演会を開催した。
- ③名古屋工業大学の4名の教官に研究助成金を交付し、母校における教育研究の振興を図った。
- ④名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ⑤理事長が名古屋工業大学諮問会議、学長選考会議及び基金運営委員会のメンバーとして、 また常務理事が基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に 提言を行った。
- ⑥名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。

(2) 学生支援

①名古屋工業会賞の贈呈

平成 23 年 3 月 23 日挙行の名古屋工業大学学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 22 名に対し、篠田理事長より工業会賞として表彰状並びに記念の時計を贈呈した。

(第一部)

山下幸宣	長江明紗美	佐藤圭
風呂谷晃太	坂井田哲資	
小島康輔	小畑智彦	小幡鷹政
作田泰隆	浅井石南	輿水佑太
横井友洋	土屋貴裕	神田裕司
川口峻	西川侑里	
山﨑友裕	長野紗季	
	風呂谷晃太小島康輔作田泰隆横井友洋川口峻	風呂谷晃太 坂井田哲資 小島康輔 小畑智彦 作田泰隆 浅井石南 横井友洋 土屋貴裕 川口峻 西川侑里

(第二部)

物質工学科	鈴木敦	電気情報工学科	箕田寛志
機械工学科	水野真吾	社会開発工学科	松浦一真

②奨学金給付

平成22年12月3日名古屋工業会館において名古屋工業会奨学金の授与式を行い、篠田理事長より激励の挨拶の後日本人10名、外国人留学生5名の計15名に奨学金を授与した。

- ③名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ④課外活動奨励金を7団体に、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑤フォーミュラプロジェクトへの支援を行った。
- ⑥平成23年3月卒業の正会員(終身会員)に祝意を表し、記念品を贈った。
- ⑦単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。

(3)教職員支援

①名古屋工業大学の定年退職教職員に、第44回通常総会にて感謝状と記念品を贈呈した。

(退職教官 11 名)

土井 稔	若山 滋	日野安昭	南後 守	坂本 功	伊藤英則
田中清明	松井憲一	大岩紀生	立光 斉	山田正明	

(退職事務官8名)

梛野友栄	今枝正仁	三木順	三田将貴	伊藤末光	中山 深
矢島すみ江	宮田正吾				

- 3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業
 - (1)会員増強活動
 - ①OB 未入会者への勧誘
 - 1)各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
 - 2)各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
 - 3)企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
 - 4) 本年度新規入会者 終身会員 28(49)名、 年度会員 27(31)名、 合計 55(80)名
 - ②新入学生への勧誘
 - 1)大学の入学手続き書類に「入会案内」を同封し、さらに手続き会場に出向き出前勧誘を行った。
 - 2) 未加入の新入生の保護者宛に、再度入会案内を送付し入会勧誘を行った。
 - 3) 本年度新規入会者 終身会員 231(242)名、 学生会員 11(9)名、 合計 237(251)名
 - ③在校生の勧誘
 - 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し入会勧誘を行った。
 - 2)各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会について、入会勧誘を行った。
 - 3) 本年度新規入会者 終身会員 8(6)名、 学生会員 11(19)名、 合計 19(25)名
 - ④名古屋工業会の魅力向上と会員のメリットを付加する目的で、「名古屋工業会カード」の 創設の検討中。
 - ⑤平成 22 年度末、OB 会員入会率; 21.4(21.4)% 対象者 55,528(54,468)名、会員 11,903(11,674)名(終身会員 8,507(8,228)名、年度会員 3,396(3,446)名) ()は前年度

(2)活性化活動

- ①会員交流および広報活動
 - 1)会誌「ごきそ」を隔月刊行し、会員並びに賛助会員に送付した。更に、3・4月号は新入生に、5・6月号は在校生の父兄に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
 - 2) ホームページの内容を随時更新し、内容の充実と即時性を高めると共に、メールマガジンを適時配信した。更にホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図った。
 - 3)工業会が保有する卒業生名簿の整備を行うと共に、名簿の一元化に向けて大学と検討を行なった。
- ②支部活動
 - 1)全国各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。
 - 2) 支部長会議を開催し、全国各支部より支部長が出席して支部活動の現況と活性化等について検討した。
- ③単科会との連携
 - 1)工業会と単科会との関係および今後の単科会のあり方等について検討するため、単科会との懇談会を実施した。
 - 2) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。
- ④講演会の開催
 - 1) 通常総会後に特別学術講演会を開催した。

日時:5月29日(土)15:40~16:40 会場:中日パレス

講師:日比野守男 氏 東京新聞・中日新聞論説委員

演題:「メディアから見た日本の社会保障」

⑤記念品の贈呈

1) 平成 20 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、第 44 回通常総会にて記念品を贈呈した。

松浦 聖 (C28)	瑞宝中受賞	寺村善美(C32)	瑞宝中綬章
安田善守 (C36)	瑞宝中綬章	保母金朗(E35)	瑞宝双光章
宇野俊泰 (C37)	瑞宝双光章		

2) 卒業満 70,60,50 周年に該当する会員に、第 44 回通常総会にて記念品を贈呈した。 70 年-昭和 15 年卒 15 名、60 年-昭和 25 年卒 37 名、50 年-昭和 35 年卒 125 名